

件 名	細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化の早期実現に関する陳情			
提 出 者 住 所 氏 名	墨田区墨田三丁目 新日本婦人の会墨田支部 支部長 ●● ●●			
受理年月日	平成21年11月24日	受理番号	第6号	

要 旨

- 1 墨田区として、ヒブワクチン接種の助成を実施してください。
- 2 ヒブワクチンの公費による定期接種化と肺炎球菌（七価ワクチン）の早期承認と公費による定期接種化について、国会及び政府に対し、意見書を提出してください。

(理 由)

細菌性髄膜炎は、毎年600人も乳幼児がかかる病気で、初期には発熱以外に特別な症状が見られないために診断が難しく、重篤な状況となって初めて分かる怖い病気です。死亡率5%、後遺症が残る率は20%と言われています。

しかし、この病気の原因とされるインフルエンザ菌b型（ヒブ）と肺炎球菌にはすでにワクチンができ、世界保健機構（WHO）は1998年に世界中のすべての国々に対して、乳幼児へのヒブワクチン無料接種を推奨しています。肺炎球菌についても、七価ワクチンが世界77か国で承認され、このワクチンを定期接種化した国々では「細菌性髄膜炎は過去の病」となっており、アメリカでは発症率が100分の1に激減したと言われています。

日本では、ヒブワクチンは2008年12月によりやく接種できるようになりましたが、まだ任意接種のため、4回の接種で3万円もかかり、子育て世代には大きな負担となっています。また、七価ワクチンは乳幼児に接種できるものとしては、まだ認められていません。

地域の子育てサークルで若いお母さんから「受けたいけど、接種のお金が高い。」「接種を希望したけど、希望者が多いためか待たされている。」「待たされている間にかかってしまったらどうしよう。」など不安の声が出され、早期実現が望まれている現状です。こうした中、東京都が今年4月からヒブワクチン接種費用の2分の1を自治体に助成することになり、すでに足立区、荒川区、北区をはじめい

くつかの区、市でこの制度の助成が実現しています。

ヒブワクチンと七価ワクチンの公費による定期接種化が実現すれば、恐ろしい細菌性髄膜炎から子どもたちを守ることができます。墨田区もぜひ1日も早く、ヒブワクチン接種の公費による助成を実施してください。また、国に対し、ヒブワクチンの公費による定期接種化と肺炎球菌（七価ワクチン）の早期承認と公費による定期接種化を要請してください。

以上の趣旨をご理解の上、上記事項の実現をお願いいたします。

以 上